

令和6年度 第19回 訪問看護研究発表会 報告

令和7年2月22日(土) 14:00～16:00
於：ハートピア京都3階大会議室



開会のあいさつ

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

看護研究をすすめるにあたり、橘大学の松本教授にご指導いただきました。本当にありがとうございました。

看護研究発表会は約20年前に始まりました。当時、協議会の会員数は131か所でしたが、2024年は192か所に増えました。当時から地域包括ケアシステムに取り組み、超高齢社会となる2025年を迎えました。しかし、協議会に未加入のステーションも多いのが現状です。また、看護の質、ステーションの休止・廃止といった課題もあります。

今日の看護研究発表を共有し、京都の訪問看護の発展に繋がることを期待して、開会の挨拶とさせていただきます。



訪問看護ステーションひなた
協議会会長 團野 一美



講評

京都橘大学看護学部
松本 賢哉 教授



司会

リニエ訪問看護ステーション二条
宇野 育江



A地区 訪問看護ステーション協議会への加入動機に関する調査
合同会社エフ
訪問看護ステーションまるっと 瀬尾 渉



講評

協議会に入会するステーションが減る中、なぜ入らないのか、なぜ入らないといけないのか疑問があった。研究の結果、協議会に入会することで、情報共有や新しい法律の解釈がわかるといったメリットが分かった。今後、協議会入会への魅力に繋がることが期待される。

広報委員感想

協議会の入会は、情報共有の場として期待されていることが示唆されました。今後の協議会活動に活かされればと思います。

B地区 在宅での医療的処置が必要な療養者へのサポート
～退院前チェックリスト作成の試み～
医療法人社団行陵会
訪問看護ステーション平野 今井 裕子



講評

在宅での医療的処置が必要な療養者へのサポートの研究。退院前チェックリストの必要性が示唆された。今後、チェックリストについて研究すると、新たな連携や病院と在宅の価値基準の違いが見えてくるかもしれない。

広報委員感想

講評であった話ですが、問題があったとき“変数”と“定数”がある。“変数”は、自分の力で変えられるもの。“定数”は、自分の力で変えられないもの。自分で変えられる“変数”に注力した方が、問題解決になるといった話が興味的でした。

C地区 支援・介護が必要な在宅高齢者のエアコン利用の判断に関する実態調査
医療法人清仁会
訪問看護ステーション亀岡シミズ 新江田 朱郁



講評

支援・介護が必要な在宅高齢者のエアコン利用の判断に関する研究。エアコンを点ける、点けなが客観的にわかる研究デザイン。意外と、みんな点けているといった結果でした。マスコミが取り上げているので、普及している印象があった。

広報委員感想

エアコンや扇風機を使っていない高齢者がいると思っていたのですが、全員使っているといった結果は意外でした。興味深い研究だと思いました。

D地区 意思決定の場におけるコンフリクトについて
～コンフリクト研修を実施することによる看護師の意識の変化～
株式会社orutena
訪問看護ステーションオルテンシア 中村 智香



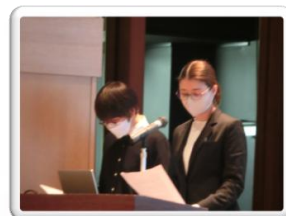
講評

研究の始まりは、治療拒否をする利用者に対する介入でした。治療拒否とは、医療者側が決めた定義であり、相手の意思や気持ちに寄り添う考え方に変えると、アプローチ方法が変わってくる。ステーションでコンフリクトについて勉強会をして問題解決に繋がる、知ることの意義が分かった研究でした。

広報委員感想

コンフリクトとは、論争・争い・衝突といった意味なのですね。講評にあったように、相手の視点で考えると、アプローチ方法が見えてくるのは、実践で活かそうです。

前半の部



後半の部の部



E地区 在宅療養を望む高齢介護者の幸福感について
医療法人八仁会
「あおぞら」訪問看護ステーション 丹羽 宏子



講評

在宅療養を望む高齢介護者の幸福感についての研究でした。“退院するときの家族の揺れってどうなのだろう”を追った縦断的研究でした。1例の事実を追い“こういう風に揺れ動くのだな”が分かった研究でした。

広報委員感想

縦断的研究とは、“特定の個人や共通の特徴を有する小集団に対して、継続的な追跡調査を行い、同じ参加者から繰り返しデータを収集する研究デザインのこと”なのですね。在宅療養を希望する介護者の支援が、大切であることを学びました。

F地区 在宅看護に携わる組織間で起こるコミュニケーションエラーの実態調査
社会福祉法人同和園
同和園訪問看護ステーション 野田 文子



講評

伝えたのに伝わらないといった疑問から始まった研究。処置の伝達では、処置の簡単さや複雑さ、誰にどのように伝えるかといった“変数”が多い。疑問を絞ることで事実近づいてくる。皮膚・排泄系で処置伝達のトラブルが多く、明らかにしたいことが明確になった研究でした。

広報委員感想

伝えたのに伝わらないって、よくあると思います。問題点を細かく切り分けて考え、疑問を絞ることで解決策が見えてくることが学びました。

G地区 「グリーンケア支援における困難感と阻害誘因について」のアンケート調査
株式会社そら
訪問看護ステーションそら 塩見 琢



講評

なぜ皆グリーンケアに行かないのだろうから始まった研究。看取りだけで始まった訪問では関係性ができずグリーンケアに行きにくい。看護師がグリーンケアに行きたくても行けない状況となり看護師にモヤモヤが残る。看護師へのケアについて研究してもいいだろう。

広報委員感想

グリーンケアの妨げとなる要因を明確にした研究でした。講評や会場での質問であったように、スタッフのケアも大事になると必要と思いました。





閉会のあいさつ

本日はお忙しい中、ご参加いただきありがとうございました。1年を通して看護研究に支援いただきました松本教授に感謝申し上げます。発表者・共同研究者の皆様、1年間お疲れ様でした。多忙な業務の中、看護研究に取り組んでこられ熱意に敬意を表します。

昨年度より参集型の発表会を再開しました。画面越しではなしえない対面での研究発表会となり、充実した時間となったと感じています。

本日の成果を共有することで看護の質が向上し、住み慣れた町で安心して暮らしていける看護実践に発展していくことを期待します。

以上をもちまして、閉会の挨拶とさせていただきます。



訪問看護ステーションうじがわ
研修委員長 池田 智子



研究発表メンバーと松本教授

取材・報告

片山 智美
(京都市立京北病院訪問看護ステーション)
松本 美春
(訪問看護ステーションビィベル)
田辺 茂
(千春会訪問看護ステーション)

